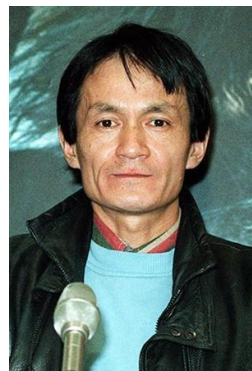


雑誌「山と溪谷」11月号は10月15日の発売である。店頭でパラパラとページをめくっていると、今年の5月にエベレストで死亡された尾崎隆さんの記事があった。

尾崎隆（1953～2011,5,12）さんは三重県亀山市生まれ、高校時代から登山をはじめ、大学を卒業後、1980年世界初のエベレスト北壁からの登攀に成功。それ以後は数々の前人未踏の記録を残す。1996年にはミャンマー最高峰カカポラジ(5581m)に初登頂。

“8000m峰のスター”と呼ばれた。その年創設された植村直己冒険賞の第一回受賞者となった。フランス人の夫人の間に1男1女あり。5月12日、彼はエベレスト南峰を登山中、8600m直下で急逝したという。あまりにも突然の訃報、いまだに信じられない思いである。享年58才。

ヒマラヤの高峰ではご遺体収容はされず、現地にそのまま自然葬にされる。だが彼を慕う各国の友人たちが救助チームを編成、シェルパ6人が5月22日にご遺体を標高8400mから約6500mのキャンプまで下ろすことに成功し、すぐさま高所ヘリコプターでご遺体移送に移ったが強風のため断念。そして翌日23日、ネパールの首都カトマンズの病院に移送ができた。尾崎さんの到着を待っていたご家族の元には午後4時に戻すことができた。



【尾崎隆さん】

近年の尾崎さんは実母が高齢化で体調を崩されたので、亀山市の実家で母親とご一緒に生活をされ、ときどき友人の経営する登山ツアー会社のガイドをされていた。つい最近、ふわく山の会もスイスアルプスをガイドして頂いている。そのときも非常にお元気であり、とても病気など考えられないという。カトマンズの病院で解剖による死因調査でも、血液内の酸素も異常はなく、いわゆる通常の高山病とは考えにくいという。彼の超人的体力と高山へ挑戦はいつも慎重な姿勢だったことから、何か突発的な病が起ったのだろうといわれる。

ふわく山の会の来年2012年新年正月の例会では、尾崎隆さんと高校山岳部からの一番の親友だった山中保一さんを招き、記念講演が行われた。山中さんは

「鈴鹿の山完全82コース」、「楽しい登山」などの著書で知られる。またネパールの女性地位向上に努力したり、ヒマラヤ登山道の緑化運動にも熱心に取り組む。最近フジTVで安藤優子の番組など、登山のコメンテーターとしても出演。NPO活動では青少年を登山や自然に触れさせ、個性を尊重する生涯教育にも取り組んでおられる。



【山中保一さん】

新年例会の講演では、ご自身の山での経験、NPOボランティアを通じてネパールの風土、あるいはヒマラヤ登攀のお話も楽しくお話を聞けたが、あまりの悲しみのためか親友、尾崎隆さんの人柄、彼の輝かしい登山記録、思い出などは聞くことはできなかった。

